

2024年9月11日

株式会社みずほ銀行
芙蓉総合リース株式会社

FUYO LEASE GROUP

MIZUHO

みずほ銀行と芙蓉総合リースとの「Mizuho Eco Finance」契約の締結について

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）と、芙蓉総合リース株式会社（代表取締役社長：織田 寛明、以下「芙蓉リース」）は、このたび、シンジケーション方式による「Mizuho Eco Finance」（※1、以下「本商品」）の融資契約を締結しました。

本商品は、脱炭素社会への移行に向けた企業の取り組みを促進していくことを目的に、みずほ銀行が提供する環境評価融資商品です。グローバルに信頼性の高い環境認定や評価等を組み入れた、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社（以下「MHRT」）が開発した環境評価モデルを用いて、企業の取り組みや指数をスコアリングし、一定のスコア以上を満たした企業に対し融資契約が行われます。

なお、評価手法を含む本商品のフレームワークについては、株式会社日本格付研究所（JCR）から環境省の「インパクトファイナンスの基本的考え方」に整合する旨の意見書を取得しています（※2）。

芙蓉リースグループが 2019 年 5 月に TCFD に賛同（※3）していること、「2030 年度に、Scope1+2 でカーボンニュートラルを達成する（※4）」という SBT に準ずる温室効果ガス排出削減目標を策定していること、サプライチェーン全体で年度毎の CO₂ 排出量を開示していることなど、MHRT の環境評価モデルにおいて高い水準で基準を満たしていることを〈みずほ〉が評価し、契約締結に至りました。

芙蓉リースグループは、2022 年度よりスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」において、CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実践を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現により、企業グループとしての持続的な成長を目指しています。また、資金調達の面ではサステナブルファイナンスを積極的に活用することにより、資金調達手段の多様化を進めるとともに、持続可能な社会の実現に貢献します。

〈みずほ〉は、今回の芙蓉リースグループとの取り組みのように、お客さまとの積極的な対話（エンゲージメント）を通じて課題やニーズを深く理解し、お客さまの SDGs・ESG への取り組みやイノベーションをサポートするため、多様なソリューションの提供に積極的に取り組んでいます。

また、気候変動対応や脱炭素社会への移行など、持続可能な社会の実現に向けた取り組み（サステナビリティアクション）を強化しています。環境・社会課題解決に向けた資金の流れを創出するサステナブルファイナンスや金融を超える知見・機能を活用したソリューション提供を通じ、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）に向けて、お客さまとともに挑戦していきます。

<案件概要：Mizuho Eco Finance コミットメントライン>

融 資 先：芙蓉総合リース株式会社

アレンジャー行：株式会社みずほ銀行

貸 付 人：国内金融機関

組 成 総 額：900億円

契 約 締 結 日：2024年9月11日

※1：「Mizuho Eco Finance」

2019年6月28日付プレスリリース「『Mizuho Eco Finance』の取扱開始について」

https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20190628release_jp.pdf

※2：株式会社日本格付研究所のウェブサイト

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

※3：「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同を表明 2019年5月27日付けプレスリリース

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8424/tdnet/1713148/00.pdf>

※4：芙蓉リースグループ 2030年カーボンニュートラル宣言 2021年7月14日付けプレスリリース

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8424/tdnet/2000920/00.pdf>

以 上